

惟喬親王のもとにまかりかよひけるを、かしらおろして小野といふ所に侍りけるに、
むつきにとぶらはむとてまかりたりけるに、比叡の山のふもとなりければ雪いと深かり
けり、しひてかのむろにまかりいたりてをがみけるに、つれづれとしていと物がなしく
て、かへりまうできてよみて送りける

忘れては夢かと思ふ思ひきや
雪ふみわけて君を見むとは

